

進路のしおり

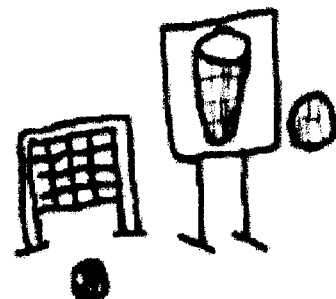
特集「地域で生きる＝すまい・あそび・すけっと」

目次

すまい	2～5
あそび	6～9
すけっと	10～13
資料	14～15

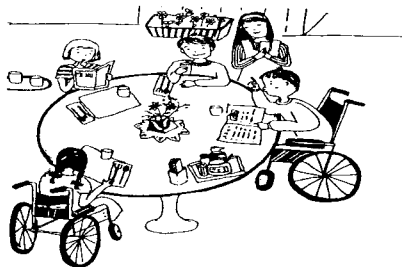
・障害者プラン
 ・施設紹介 ・進路先一覧

あとがき



- 埼玉県高等学校進路指導研究会
障害児教育部会・肢体不自由養護学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由養護学校進路指導研究会
- 埼玉県肢体不自由養護学校校長会

生活ホーム



生活ホームで暮らす

まず、『地域』とは観念的なものではなく、本人が体で覚えて具体的に語れるものでなくては意味がありません。また、『地域で生きる力』というのは、養護学校在学中から地域に出て行って体で覚えていくしかありません。『地域で共に暮らす』と口では簡単に言いますが、現実にはそんなに甘くないと認識すべきです。まだまだ、ありのままの障害が社会に受け入れられていません。

地域の出会いの中ではたくさんの素敵な出会いもあるし、トラブル、衝突、差別などがあるのも事実です。今の『ノーマライゼーション』は、大勢の『ノーマル』に近づけようとしたり、同化させようということ。そうではなく、積極的に外出をして地域の人と出会いながら、その『違い』をお互いに認め合うことができる人たちが数多く作っていくことが大切だと思います。

これまでは、在宅か施設かという限定された選択しかできなかった。しかし、生活ホームというはお互いを認め合い、地域で普通に暮らすための生活の場になっています。

(元オエヴィス管理人 本田さん)

社会福祉法人つぐみ共生会設立「生活ホーム オエヴィス」では、現在4人の障害者（知的障害者1名、身体障害者3名）が生活しています。

生活ホームとは、障害のある人達が4人以上でアパートなどを借りて生活するときに、専従の職員をおく費用を公費で負担するという県単独の事業です。国の事業としては知的障害者のためのグループホームがあります。

利用者へ聞く

—藤崎 稔さん—

ここを利用したきっかけは

1979年にスウェーデンへ行ったとき、生活ホームを見て普通に地域で生活していたから自分にもできると思った。

利用する前の生活は

在宅で、週に3〜4日『わらじの会』で活動していた。

利用して良かったこと

生活上の制約が出てきてしまったけど、毎日、親の干渉がなく自由にされた。

特に利用して困ったこと

必要な介助者を毎日確保するのが難しいこと。なにをやるのにも介助なしではできないから。

1週間の生活の内容は

- 月…生活ホームの自治会や連絡会
- 火…知的障害者の社会参加の手伝いや市役所へ遊びに行く
- 水…(午前)ヘルパーさん来宅
(午後)あいているが、たい急用が入る
- 木…数人のグループで外出(社会参加の場として在宅訪問、駅設備状況の点検など)
- 金…自立生活プログラム学習会のサブ講師

利用しているケアシステムやボランティアは

土、日、休日は社会福祉協議会の在宅介護サービス、他の日はケアシステム「わら細工」(P. 13参照)

生活費はどうしているのか

収入は障害基礎年金、特別障害者手当、生活保護で月約15万円、これは部屋代、光熱費、食費、小遣いなどにあてる。また、介助費用(生活保護の他人介護加算と全身性障害者介護人派遣事業)として国と市から月約21万円支給されるが、1日7時間(朝2・昼1・夕4)介助者を頼むとちょうど1ヶ月分になる。

ホームを利用しようと思っている人にアドバイスを

なにしろ地域の中を歩いてみなさい。街を歩いてみなさい。知らないことがいっぱいある。外に出るのはたいへんだと思うけれどとにかくやってみる。そして生活ホームなどの体験入居などを通し、人(介助)の利用の仕方などを知るのも必要。まず自分で生活する楽しさを知ってほしい。

(K養護学校卒業)

問い合わせ
 社会福祉法人
 つぐみ共生会
 くらしセンター ベしみ
 TEL 0489-75-8511
 生活ホーム オエヴィス
 TEL 0489-75-1524
 生活ホーム もんてん
 TEL 0489-75-1021

遊びは人生のスパイス

あそび

☆関根善一さんのプロフィール

今年42歳。7年前に埼玉から町田市に転居。町田ヒューマンネットワーク（障害者自立生活センター）の常勤職員で自立生活プログラム担当。仕事のかたわら音楽グループ“ポピーズ”や障害のある人たちが構成している劇団“態変”などの活動をしている。高性能の電動車椅子で街を闊歩。妻と子ども二人の4人暮らし。

・自立生活プログラムでは遊びを重視しているそうですが、それはなぜですか？

人間関係を学んでいく基本は、「遊び」。そこで社会性や自分で責任をとることなど学んでいきます。ところが障害者の育ちの中では、遊びが訓練だったり、子ども同士の関係が奪われてしまっていたりします。そこで技術的なことよりも生活する意欲を引き出すために、みんなで遊びにしようということで、遊園地に行ったり飲み屋にいたりしています。

・関根さん自身で遊びについての小さい頃の思い出はありますか？

近所の友達とは外で真っ黒になって遊んでいたけど、学校では「コマ回し」など訓練としてやらされたことを強く覚えています。コマ回しに興味がなかったわけではないけれど、それはもう遊びでも何でもなし。僕は、歩くこととりハビリを捨てた瞬間、自由になったような気がします。

・「ポピーズ&フレンズ」というバンドや障害者の劇団「態変」をやっているそうですが

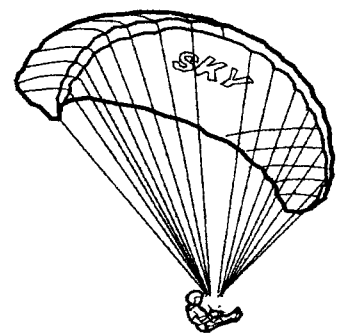
自分史の中で、音楽に出会ったり、演じることに出会ったりしました。仕事だけの生活ではないところで自分を表現することは、自分を豊かにする意味でとても大切なことだと思っています。養護学校卒業後仲間とグループを結成し、障害者が自分自身の生活や想いを歌うプロテストソングとしての活動をしたり、演劇では「生命」ということをテーマに自分の不自由な体を使って生きることの大切さを表現していきたいと思っています。

・とってもアクティブな関根さんですが、その信条はなんですか？

まずは、生きたいように生きるということ。今までは障害があるが故に、訓練やりハビリを強制されてきた。障害を個性として考え、できるだけ同世代の仲間とたくさん遊び、多くの経験をしてほしいと思う。そこからなにがしたいのか、どう生きたいのか生まれてくるのではないだろうか。

・最後に関根さんにとって「遊び」とはなんですか？

人生の半分は遊びなんだろうと思う。遊びは本来無目的、でもその中で結果として仲間同士の関わりや共通の体験から関係性の深さが生まれてくる。人生には、遊びと遊び心が必要ではないだろうか。人は夢が無くては生きていけない。それは障害者もなにも関係ない。自分自身の人生を豊かに生きるためにも、自分自身を取り戻すためにもたくさん遊んでたくさん夢を持ってほしいと思う。



「あそび」は、人生を豊かに過ごすためには無くしてはならないものです。人生を味わうことに障害もなにも関係ありません。しかしながら今までは障害のある人達にとって、遊びは訓練であったり、遊ぶこと＝人生を豊かにすること、まで想いが及んでなかったのではないのでしょうか。ここでは遊びに対する考え方、実際の様子、遊びへの誘いなど、人生をより豊かにしていくためのヒントをあげてみました。

すけつと

生活の中に介助者を

☆村山美和さんのプロフィール

脳性麻痺の障害を持ち、普段は電動車椅子に乗って生活しています。小・中学校を肢体不自由児施設の中で過ごし、その後実家で13年間過ごしました。いまは3年ほど前から浦和市の民間アパートの1室(1階)を借りて暮らしています。浦和を拠点にして、障害者団体の活動、女性障害者の運動、ピアカウンセラーの仕事や詩作など、自分で選んだ「やりたいこと」を中心に動き回っています。

著書：「あんドーナッツ……一人で暮らすよといえるまで」簡井書房刊

生活の中に介助者を 入れて暮らす

私の生活でもとても重要なのは「介助」のことです。浦和市に住むと、365日、朝7時から夜11時まで、一日五時間を限度に切り張りで(例えば朝2時間、昼1時間、夜2時間というように)ホームヘルパーが派遣されます。私の場合、曜日にもよりますが、朝8時半から2時間、夜10時から1時間の派遣にしています。これ以外に私が所属している障害者団体「虹の会」から派遣される介助者が夜8時から2時間入ります。

私は低所得世帯なので、ヘルパー派遣の費用はかかりません。ただヘルパー制度だけだと突発的に必要になる介助や、長時間の外出介助はできません。浦和市ではヘルパー制度の他に、「身体障害者ガイドヘルプ事業」というかたちで介助料が最高70400円(時給1100円×64時間)出るので、その制度を使って虹の会から介助者を派遣してもらっています。

介助内容は生活全般(掃除・洗濯・調理・入浴の部分介助etc)になります。私は基本的に、たくさん時間をかければ一人でできてしまいます。しかし、1時間かけて着替えをし、2時間かけて掃除機をかけ、毎食2、3時間かけて食事の準備をしていたら、一日24時間ではとうてい足りません。基本的な生活をするだけで精一杯になってしまうからです。

豊かな生活を

社会的活動、文化的活動も、人間にとって大切な活動だということは、皆さんもご存じの通りです。私は、2時間かけてお昼ご飯を作るよりも、人の手を借りて30分で済ませることを選びました。1時間かけて着替えることより、介助を受けて10分で済ませることを選んだのです。残りの時間を自分のしたいことや社会活動に使いたいと思ったからです。

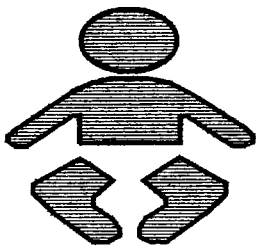
一人暮らしをはじめて、家族との関係が一方的に依存する形ではなく、私は私の人生として、家族は家族の人生として別々に考えられる関係が作られたことはとても良かったと思っています。

虹の会連絡先

浦和市下大久保760-2106

TEL 048-855-8438

「人の手を借りて、自分のしたいことをする」こんな生活方法があってもいいと思いませんか。実際に人の手を借りて自分の人生を豊かに生きている人や、また障害のある人たちなど、手に手を貸すことによって生活を楽しんでいる人。さりげなく手を借りる人、貸す人、それが地域のつながりになっていくようになります。



街の中の すけっと

木村俊彦さんは三年前に養護学校の教員を辞め、今は「地域で共に・ふくしネット213」という福祉団体の事務局長や、「よろづや」というお店の運営委員をやりながら障害のある人達と共に生きる地域生活のあり方を探っています。

近頃思うこと

当初、障害者にたくさん外に出てほしい、障害者も地域であたりまえに暮らせるようになってほしいということで、さまざまな支援を始めました。だが、どうも違うなということを感じ始めました。例えば、障害を持っている人の外出を手伝ったとき、「どこにいきますか?」「さあ、どこにいきますか?」「うーん、(わからない)」というやりとりがよくありました。そこで次からは、『場』を設定して誘うようにしました。例えば「レストランに行こう」「映画を見に行こう」というふうなんです。この時、本人が「外に出よう」とか「何かしよう」と思わない限りどんな介助の制度やシステムが整っていてもだめなのではないかと思いました。

ではなぜ、こういった具体的な欲求なり要望が出ないのでしょうか。今までの生活であまりにも生活体験や友達関係が少なかったからということが考えられます。もし友達がいたら、友達と遊びに行くとか、友達に会いに行くとかいろいろ出てくるでしょう。「何かしよう」「どこかへ出よう」という「自分の意思」というものは、たぶんさまざまな人間関係の中で育っていくのかもしれない。

望ましい関係とは

介助者・被介助者の関係ではなくまず必要なのは友達関係・仲間関係です。しかもこの人間関係というのは例えば障害者と健常者を分けた関係ではなく、障害者も健常者もいろんな形で一緒に共に生きている関係がいいのです。それから私たちはつい介助してあげよう、友達になろうと力んでもがちですが、本当はただふつうに声をかけ、普通に友達になればいいと思います。

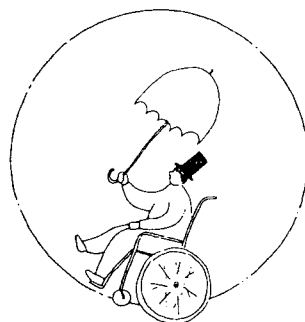
人間関係の中で障害者にも自己決定がなされ、何か行動しようという思いが起きてきて、できない部分を手伝ってもらおうということになり、初めて介助というものが成り立ちます。

障害をもつ人を通して

作られる地域

障害者には障害を持ちつつ生きていくための暮らしの知恵というものがあります。彼らとつきあっていると、困った時本当に頼りになります。例えば、お医者さんはどこがよいかとか、役所とはどうつきあったらよいかとか、生活保護を受けるには手続きはどうしたらよいかとか、いろいろ彼らの“暮らしの知恵”というのはいりになります。それから障害者を通してつながっていくものがあります。駅の階段で障害者の乗っている車椅子を見ず知らずの人達同志と一緒に降ろしていく、こういう風景は街に手を貸してあげられるような障害者がいなかったらみられなかったことでしょう。こうやって地域が作られていくんじゃないかと考えています。

■木村さんは今後さらに『どんな共生のありかたがよいか』ということを考えながら、地域活動センターを作り、そこを拠点にして地域全体の福祉活動を応援していくそうです。



「地域で共に・ふくしネット213」

「障害者の自立生活を促進・援助し、障害者と健常者が共に生きる地域社会を作ること」を活動方針とし ①障害者の就職先の開拓及び障害者が健常者と共に働く店や事業所の運営②地域でのケアシステム ③障害者の生活の場 ④障害者を持ちつつ地域で生活するためのノウハウの蓄積と相談の窓口 ⑤障害者が積極的に地域社会に出ていくことによる社会参加の促進 ⑦障害者が地域社会に出ていくための足場作り ⑧その他、障害者の完全参加と平等を押し進める諸活動 等の事業を研究・準備・設立・運営しています。

連絡先:

新座市新座2-4-3 TEL 048-481-3637

施設紹介

県内の施設や団体でユニークな活動や取り組みを紹介します

施設名・・・「おぶすま作業所」 施設長 坂本 稔さん
 「おぶすま生活ホーム」
 「かがやき ウイズ」

運営母体 おぶすま福祉会
 所在地 大里郡寄居町富田1452-1
 電話 0485-82-4831

おぶすま福祉会では、「地域の活性化及び心身障害者の自立性・社会性の発達・促進を図ること」を目的として、社会に開放された施設を目指して現在奮闘中です。

・心身障害者地域デイケア施設 おぶすま作業所（定員19名）

低、無農薬を基本に、広大な土地で米・麦・茶・季節の野菜など耕作から収穫まで全ての農作業を行っています。新鮮な農作物は、作業所内や町内の店で販売したり、施設内の軽食堂等の食材や自分たちの食事にとフルに活用しています。その他、身体の状態に応じてのリハビリや各種レクリエーション、毎月の野外活動や交流会として開催する夏のキャンプ、温泉旅行等余暇活動も充実しています。

・心身障害者おぶすま生活ホーム（定員9名）

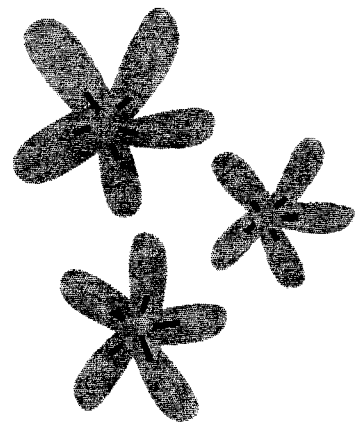
自立と社会参加の訓練場所を提供するケア付きアパートです。全室個室（冷暖房完備）で、最低限の規則はありますが、個人が自由に明るく安心して生活できるように心掛けています。（入居者は身辺自立が可能な方で手帳所持者に限りませす）

・給配食、食事サービスセンター かがやきウィズ

作業所の農作物を利用し、予算・希望により仕出し弁当もやっています。施設内に食堂も設置し、地粉を使った手打ちうどんや定食・喫茶もを行っています。

埼玉県内肢体不自由養護学校進路状況（6校・高等部卒業生）

	1993	1994	1995
就労	3	3	5
訓練	2	4	2
福祉法施設	13	14	8
地域デイケア	31	31	41
進学	2	—	1
在宅	10	8	7
計	61	60	64



- 『就労』 公務員、一般の企業など
- 『訓練』 国立職業リハ、小平職業能力開発校など
- 『福祉法施設』 身体障害者福祉法による療護、授産、更生施設（含県リハ）など
- 『地域デイケア』 県条例による無認可小規模施設（定員6名から19名）
- 『進学』 大学、専門学校など
- 『在宅』 施設入所待機、自宅療養、家事手伝いなど

あとがき

■学校卒業後、進学、一般就労、通所施設、入所施設、療養、在宅など、さまざまな生活を送りますが、楽しんで生き生きと豊かに生きるということは誰にとっても大切なことです。今回のテーマは、「すまい」「すけっと」「あそび」ですが、卒業後の生活をより豊かに生きるためのノウハウや、実際に自分の生活を大切にしながら豊かに生きている先輩達の知恵、その為の制度の紹介、施設紹介などが盛り込まれています。

刊行に至るまでの各校の進路担当者のご尽力に感謝申し上げますと共に、この「進路のしおり」が、保護者の方、生徒、先生方に広く利用されることを願います。

(埼玉県立日高養護学校長 金子有次)

■学校卒業後豊かな生活を送るには、衣食住と経済的な基盤が必要です。しかし、障害者が地域社会の中で当たり前のように生活することの必要性が叫ばれて久しいのですが、まだまだすべての障害者にとって必ずしも豊かな生活が保障されているわけではありません。自立した豊かな生活を送るためには多くのバリアを取り除かなければならないのです。

そこで、障害のある人達が地域生活を営む上で考えられることを6つの項目「すまい」「あそび」「すけっと」「おかね」「ふくし」「なかま」に分け、この号では初めの3つを取り上げ、障害当事者の声や想い、実際の様子や制度などを紹介しようと試みました。これらのことが障害のある子どもたちの卒業後の生活がより豊かになるための一助になることを願ってやみません。

尚、編集にあたってご指導、ご協力いただいた多くの方々に深く感謝いたします。また、お問い合わせは、右記編集委員までお願いいたします。

(編集委員 増田)

「進路のしおり」第4号

発行日

1997年(平成9年)3月15日

編集・発行

・埼玉県高等学校進路指導研究会
障害児教育部会

肢体不自由養護学校小委員会

・埼玉県肢体不自由養護学校 進路指導研究会
宇都木 章 県立越谷養護学校

0489-75-2111

黒古 次男 県立和光養護学校

048-465-9770

磯 輝一 県立宮代養護学校

0480-35-2432

増田 美鈴 県立日高養護学校

0429-85-4391

宮原 本法 県立熊谷養護学校

0485-32-3689

作美 利春 大宮市立養護学校

048-622-5631

表紙絵 伊藤幸枝さん(大宮市立養護学校在学)

協賛 埼玉県肢体不自由養護学校校長会

印刷所

埼玉県社会福祉事業団
身体障害者授産施設
「あさか向陽園」

〒351 埼玉県朝霞市膝折上ノ原2-13

電話 048-466-1411

FAX 048-466-3622

